

D-73-管調資-No.36

各国事情のしおり

—— マダガスカル編 ——

1973・11

海外技術協力事業団



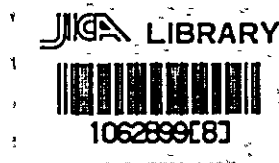
は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料として同国に派遣されている柔道専門家、大槻哲生氏からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣、食、住、気候、教育、公共施設、対日感情、治安等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正をおこなってゆくが、本小冊子が同国に赴任する専門家の何らかの参考になれば幸である。

昭和48年11月



海外技術協力事業団

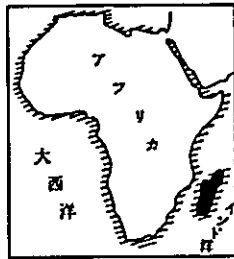
理事長 田付景一

国際協力事業団	
受入 月日 5.18752.98	P40.96
登録 No. 08267	20
	EX

目 次

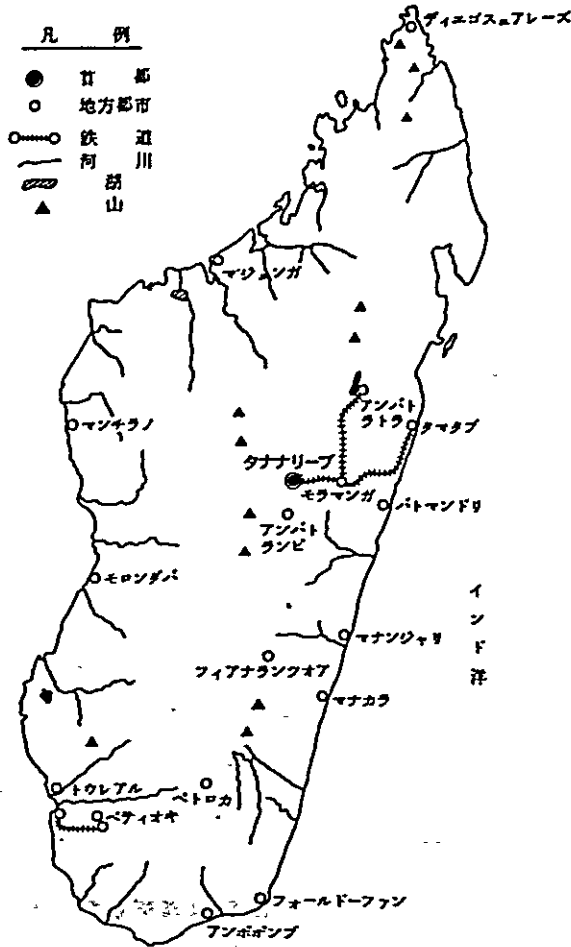
I 任国事情	1
1. 住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器・備品）.....	1
2. 食品（食糧事情、価格、外食）.....	3
3. 衣類、日用品（衣料事情、日用品）	7
4. 使用人.....	8
5. 医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、 健康管理上の注意事項）	9
6. 子弟の教育機関（教育制度、教育機関、 授業料、通学方法）	10
7. 娯楽設備（保養地等、日本人クラブ等）.....	12
8. 電 力.....	13
9. 交通（交通事情、タクシー、ハイヤー、 レンタ・カー、自動車購入、運転免許）.....	13
10. 為替（相場、対日送金、滞在費等の受取方法）.....	16
11. 出入国管理（税関検査、外人登録、 ビザの更新手続等）	17
12. 便宜供与（種類、カウンターパート等、免許特権）.....	18
13. 通信、運輸（郵便事情、運輸）.....	18
14. 言語（公用語、現地語事前学習、語学学習施設）.....	20
15. 気 候	20
16. 治安（一般情勢、夜間外出、 緊急時における連絡方法）	21
17. その他（対日感情、新聞、雑誌等、 風俗・習慣、理髪、美容、買物）.....	22
II 同国に対する我国の技術協力実績	26
III 大使館等連絡先	27

マダガスカル共和国略図



凡 例

- 首都
- 地方都市
- 鉄道
- 河川
- ▨ 湖沼
- ▲ 山



面積 59万2000km²。
 人口 665万人。
 言語 フラソア語 (Fasoan)。
 人口 35万人。
 通貨単位 フラソアンフラン (F.M.F.)
 = 117円。
 主要産物 砂糖、肉桂、胡椒、椰子、
 小麦、米。
 主要産業 砂糖、肉桂、胡椒、椰子、
 小麦、米。
 主要産業 フラソアンフラン、小麦、米。

マダガスカルの面積は日本の倍以上を占
 めている。主要産物は、砂糖、
 小麦、米などであるが、これら主要産
 物を輸出し、鉄鋼、自動車、機械、医薬品
 を輸入している。

I 任 国 事 情

1. 住 宅

(イ) 住宅事情

① エージェントの有無

タナナリーブ市には周旋屋が数軒の他、住宅公団の窓口があり常時受付けしている。

② 入手難易度

フランス人が相当数引き上げたため現在ではかなり空家が多く容易であるが趣向により適当な借家を見つけるのには時間がかかる。

③ 賃借方法（月払、年払等）

周旋屋にたのみ決定した場合は周旋屋への礼金としてその家賃の1ヶ月分を家主と借人とで半々ずつ支払う事になっている。家賃の支払い方法はその家主との契約により個々まちまちである。公団の場合は1ヶ月分の敷金が必要である。

(ロ) 家 賃 （専門家が居住する家屋の平均的家賃）

① 独身者 公団アパート又は個人の経営するアパートが良い。

月額25,000～45,000 F.M.G (フランマルガッシュ)

② 家族2人 アパートか独立家屋

月額35,000～50,000 F.M.G

③ 家族4人 独立家屋が適当であろう。

月額45,000～60,000 F.M.G (この程度は中級クラスである)。

(一) ホテル

① 短期滞在のホテル（食費込料金）

タナナリーブ市の主なホテルの料金は次の通り。

（一泊平均朝食付き）（レストランの有無）

マダガスカルヒルトン	4,000 F. M. G	有
ホテル パノラマ	4,000 "	有
ホテル コルベール	4,000 "	有
ホテル ドゥフランス	3,500 "	有
ホテル セレクト	2,500 "	無
モーテル アジップ	3,500 "	有

昼夜の定食は750～1,300 F. M. G位である。

ア.ラ.カルトでは1,500 F. M. G以上、従って1日最低の滞在費は（食事込み）5,000 F. M. Gは必要である。

② 長期滞在のホテル又はマンション

ホテルに滞在する事は経費の点から不経済であるので借家を求めた方が割り安である。

ホテルに長期滞在の場合は1割程度割り引きになる。

マンションは無い。

(二) 什器備品

① 携行を必要とする食器類等

日本式のものを希望しなければ日常の家具・什器は当地で調達出来るが、日本食器一式は持参した方がよい。

② 入居当初必要とする経費（冷蔵庫等購入代金）

1人分

毛布(3枚)、シーツ、枕、ベッドカバー	5万 F.M.G
食器類、調理道具、グラス	7万 "
カーテン、雑費	5万 "
冷蔵庫、ガスレンジ(オープン付)	} 最低 30万 "
洋服ダンス、ベッド、アイスボック	
クス、アイロン、アイロン台、ラ	
ジオ	

合計 約50万 F.M.G程度はかかる。

2 食 品

(1) 食糧事情

① 一般的食糧事情(特に不足の品)

米は現地人の主食でもあるが現在不足ぎみで、出まわっている時買い置きをして置かないと無くなる。味は日本人の嗜好には合わないものであるが、温かい時はまあまあである。サラダ油、牛乳等も時々無くなるが魚等は冷凍のものがある。野菜、くだもの類は種類が豊富で安く新鮮である。醤油は、中国醤油がマーケットで買う事が出来る。味噌やその他の日本食糧品はまったく買う事が出来ないのも持参の方が良い。タナナリーブ市の中国人の店で豆腐を作っている店が1軒あるのと、ぎょうざの皮やさつま揚げ等も前もって予約して置くで作ってくれる所もある。

② 日本食品の入手状況

日本より取りよせる方法しかない。

③ 水、燃料(電気、ガス、炭)、調理器具、調味料

外国人の場合水道の水は普通わかして飲むか、飲み水だけはビン入の(エビアン等)を買って飲む。

調理は主としてプロパンガスレンジを使用し暖房には薪を使用している。調味料は中国醤油、塩、砂糖、コショウ、ケチャップ、マヨネーズ等でこれらはいつでも買える。

④ 日本レストランの有無

日本レストランは無いが中国、ベトナムレストラン合せて、タナナリーブ市には10軒近くありメニューも日本語で書いてある所もある。

(ロ) 価 格

1フランマルガッシュ(E.M.G)≒1.17円

品 名	数 量	価 格
パン フランスパン バゲット	1 本	25 F.M.G
米	1 Kg	35~65
スパゲッティ	1 Kg	150
マカロニ	1 Kg	150
ラーメン(インスタント ではない)	1 袋	100
小麦粉	1 Kg	65
牛 肉	1 Kg	350~650
ブタ肉	1 Kg	450~600
羊 肉	1 Kg	450~600
馬 肉	1 Kg	300~500
ハム	1 Kg	1200~1600
ソーセージ	1 Kg	500~600

品名	数量	価格
ベーコン	1 Kg	600~700 F.M.G
卵	1 個	20~25
牛乳	1 ℓ	65 (今は無し)
冷凍魚	1 Kg	500~1,000
冷凍エビ	1 "	1,000~1,200
バター	1 ポンド	310~350
チーズ	1 "	300
長ねぎ	1 Kg	60~80
ジャガイモ	1 "	30~50
玉ねぎ	1 "	250~650
人参	"	40~80
マッシュルーム	"	250~350
ほうれん草	"	50~80
きゅうり	"	60~200
ナス	"	60~200
大根	"	50~80
ピーマン	"	60~180
カリフラワー	"	40~80
キャベツ	"	25~100
レタス	1 個	20~35
パイナップル	"	80~150
オレンジ	1 Kg	80~150
バナナ	"	30~80
いちご	"	200~350

品名	数量	価格
マンゴー	1 Kg	100~200 F.M.G
リーチ	"	100~300
ウイスキー ジョニ赤	1 本	2,450
" " 黒	"	3,990
ワイン	"	240
ビール	"	120~128
コココーラ	(小瓶)	50
ファンタ	(")	50
塩	1 Kg	150
砂糖	"	65~68
酢	1 ℓ	200
サラダ油	"	200~250
ケチャップ	1瓶(340g入り)	240~280
マヨネーズ	1瓶(250g入り)	285~450
コーヒー(ネスカフェ)	(50g入り)	420~470
紅茶(リプトン)	1 缶(小)	385
煙草	1 箱	60~180

(イ) 外食 単身赴任者の外食状況および外食代

(2~3の実例をあげると)

首都には中国、ベトナムレストランが沢山あり、また

ホテルのレストランを利用出来、軽食で800~1,500

F.M.G位で充分であり、デラックスなホテルの夕食で

は限りがない。

(二) その他(携行すべき調味料等)

日本のものは皆無であるため醤油、味噌、味の素、のり、とんぶ、梅干し、乾めん類、日本カレー、ワカメ、ヒジキ等。

3. 衣類・日用品

(イ) 衣料事情

① 一般的衣料事情(価格、特に不足の品)

フランスからかなり入っているが価格、サイズも日本人に合うのをさがすのは難かしいのでワイシャツ、下着類等一応持参した方がよい。婦人服もパリからの流行のものは入るが高く、サイズもあまりないので仕立ててもらった方がよい。布地は高く、仕立代は安いので日本の布地を持って来るとよい。下着についても一応持参した方がよい。

② 必要とする衣類(気候、公式、普段等の別による衣生活)

冬は朝夕は冷え込む為セーター、カーディガン、薄手のコートが必要、雨季でもレインコート、雨靴は不要、雨傘があれば充分。

公式の場合、特に礼服は必要とせず黒又は濃紺の背広でよい。女性の場合は和服は持参した方がよい。

③ 携行すべきもの

男性、ワイシャツ、セーター、カーディガン、靴下、ネクタイ、ハンカチーフ、下着、靴、背広。

女性、下着類、洋服、和服、ストッキング、靴、等。

(ロ) 日用品、特に高価なもの又は入手困難なもの

ポマード、チック、シェービングクリーム類は無い。女性用の化粧品等も持参した方がよい。紙類は特に質が悪くトイレットペーパーはワラバン紙並でありちり紙、ティッシュペーパー等は無い。

4. 使用人

召使、コック、庭師、子守、守衛、運転手等

① 職業紹介所の有無

労働省内部に雇用特別相談所が有り紹介を受ける事が出来る。一般に勤務先の知人、友人、家主等の紹介によつてゐる。

② 通常の給与金額(月額、通い)

召使	4,000	～	8,000	(フランマルガッシュ) F.M.G
コック	5,000	～	10,000	
庭師	3,000	～	5,000	
子守	4,000	～	6,000	
守衛	5,000	～	10,000	
運転手	10,000	～	15,000	

③ 最低必要とする使用人の種類および人数

単身でアパート住いの場合は召使1人で充分、独立家屋で庭の有る場合は召使1人、庭師1人(庭師が守衛を兼ねる事も出来る)が必要である。

④ 雇用、解雇に際し特に注意すべき事項

就職難の為、使用人を探す事は極めて容易であるが必ず紹介者を通じて雇用する必要がある。また1ヶ月間の試用期間をもうけた方がよい。

解雇に際しては試用期間を除いて1ヶ月～5年間までは1ヶ月分の退職金を与えれば良い。

5. 医療

(1) 医療事情

① 医療施設

首都タナナリブ市には国立病院が1ヶ所ある他、フランスの陸軍病院と私立の病院が数ヶ所ある（個人の開業医として歯医者等もある）。

② 日本人医師の有無

日本人医師はいないが外務省派遣のナイジェリア駐在の医務官が年1～2回館員を対象に在留邦人にも健康診断および健康相談に応じてくれる他在留邦人巡回検診として年1～2回ある。

③ 産産の安全性

筆者の場合は当地にて2人の子供が出生したため、当地の病院の設備や安全性についてじかに知る事が出来た。長女の場合はフランスの陸軍病院で出生し、次女はカトリック系のマタニティークリニックで出生した。陸軍病院は設備も整って居り輸血用の血液も常に有り病室も清潔であったが、出産時には普通医師は立ち合わず助産婦だけであった。次女が出生したマタニティークリニックは設備はあまり良くないがフランス人医師が立ち合ってくれる。また看護をしてくれる人達が修道女連でとても親切であったがこれらの経験から考えて今のところマダガスカルで一番安全性の高いのは陸軍病院であると思われる。しかしまた最新設備の完備し

た国立総合病院も出来たので当地に於いて出産する事
になんら心配はならない。

(ロ) 医薬品（日本から持参すべき薬品）

一般家庭薬は容易に入手が可能であるが使い慣れた薬
品を一応のものは持参した方がよい。

(ハ) 疾病の種類

① 風土病的なもの

特に無い。

② 日本出発に特に予防注射しておくべきもの

天然痘、コレラ、黄熱病は入国の際証明書が必要で
ある。またチフス破傷風、マラリア等の予防注射も出
来ればした方がよい。

(ニ) 健康管理上の注意事項

○ 飲料水は良質でないため生水を飲まない方がよい。

○ 1日の温度の変化が著しいため、風邪をひきやすい。

○ 地方出張の場合はマラリアの薬（キニーネ）を服用し
た方が安全である。

○ 一般の衛生環境は良好とはいえず、ねずみ、ゴキブリ、
ノミ等特に季節の変わり目に繁殖するので常に薬品を備
え駆除を心がける必要がある。

○ 精神衛生上、時にはスポーツ、娯楽、旅行等を心がけ
る事も必要であろう。

6. 子弟の教育機関

(イ) 教育制度の概要と教育機関（幼稚園、小学校、中高校
等）

かつてこの国はフランスの植民地であつたためフラ

ンスの教育機構が総て母体となっている。小学校の初等教育が5年制で中高等教育が7年制である。中等教育の4年時を終了すれば希望により師範学校、医学校、看護学校等の実業学校へ編入試験を受ける事が出来る。昨年の学生改革問題で今年より文部省管轄の公立学校では中高等教育の内容も若干変ってフランス一辺倒の教育からマダガスカル化が計られ、日本歴史等も教材に取り入れられ多様になった。また職業教育をも含めて実施されている。

1972年1月の文部省調査によると小学校の就学率は51%で学校数は6,054校(内公立4,477校)、生徒数1,004,445人(内公立743,721人)、中高校は946校(内公立526校)、生徒数105,320人である。教育普及率の面から都市部と村落部地域とはかなり開きがみられる。大学はマダガスカル国立大学が設けられている。

(ロ) 通常専門家の子弟が利用している教育機関の実例(日本人学校の有無、国際学校の利用者等も含めて記載すること)

日本人学校は無いが、私立学校では、初等教育のAlliances Françaises, 中高等教育では Lycee, Françaises の他カトリック系の小中高の学校等がある。現在のところ在留日本人の中では、子供が小さいので学校に入った者は1人もいない。

(ハ) 授業料

公立学校の場合には授業料は不要である。

私立学校に於いては所要学費（授業料、入学金、保険料等）は学校によりかなり違いがあるが概ね次の通りである。

	授業料(月額)	入学金および保険料(年間)
幼稚園	2,500 F.M.G	2,000 F.M.G
小学校	3,000 "	3,500 "
中高校 1~4年	3,500 "	4,000 "
5~6年	4,000 "	4,000 "
7(最終年)	4,500 "	4,000 "

(二) 通学方法（送迎、スクールバスの便等）

一般に目家用車で送り迎えしている。スクールバスは無い。

7. 娯楽設備

(イ) 保養地、ゴルフ、ボーリング、映画等

ゴルフ（2ヶ所）、ボーリングは1ヶ所でホテルヒルトンの内にある。4レーンのみ。映画館数軒、カジノ（3ヶ所）、乗馬クラブ、テニスクラブ、プール、水上スキー等がある。保養地としてはダナナリーブ市の水源地となっているマントスア湖があり、水泳、魚釣等ピクニックとして楽しめる他遺跡めぐりとして昔の王宮や博物館等がある。

(ロ) 通常の余暇の過ごし方（2、3例をあげると）

週末には近くの湖へピクニックに出かけたり、ホテルのボーリングやプールまたはゴルフ等、週日はラジオを聞いたり、映画に出かける程度である。一応テレビはあ

るが1日2時間程度で週に一度休みがあり、番組もお粗末である(ラジオ、テレビ共マダガスカル語、フランス語で放送されている。ラジオの方は日本からの国際は聴取困難であるが聞き取れない事もない)ため書物、手芸用品等自分の趣味に応じ準備して来た方が良い。

(b) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無、料金

日本人クラブは無い。スポーツクラブは現地人、ヨーロッパ人の経営するのが数ヶ所にあり、日本人も随時加入する事が出来る。テニスクラブ等は年間3万～5万F.M.G程度である。

8. 電 力

電圧・サイクル

電気は新旧街によって交流110V50サイクルの所と交流220V～230V50サイクルの所がある。

日本の100Vの電気製品を使用する場合は変圧器が必要で持参した方が良い。電気料金は割合高く電圧の変動もあり時々停電もある。

9. 交 通

(a) 交通事情

① 一般交通機関の発達度・種類

この国は岩山や深い峡谷の多い地形上の理由からくる交通の不便さにより割合国内航空網が発達して居り主要都市間を週3～4便運行している。鉄道は延長86.4kmにすぎず主に首都タナナリ、ブ市と主要港タマタブとを結ぶ37.5kmが朝夕1日2回両市から相互に発着して居り、所要時間は約1.1時間である。その

他地方都市の交通機関は乗り合いタクシー（タクシールース）か自家用車、レンタカーに限られる。

② 道路事情（舗装状況等）

主要道路は一応舗装されているが破損箇所や急カーブが多く事故が頻繁に起きている。首都タナナリーブ市は坂道が多い街で道幅も狭いためラッシュ時にはかなり車が渋滞する。

③ 特に注意すべき交通法規（右側通行、駐車等）

交通法規は特に日本と変らない。但し車は右側通行で日本とは逆である。また車検制度が無いため時々エンジンを起している車に出合う等ボンコツ車が多い事や法規無視の運転も多く、また、特に定められていない地域でも駐車違反による場合もあるので注意が必要である。

④ 交通事故の取り扱い

必ず保険に加入する事が必要である。事故発生の場合には警察に届け出て現場検証を受けた後保険会社へ連絡する。

⑤ 事故補償（保険制度・保険金・補償額等）

自動車保険には① Tous Ris Ques と② Assvrurance Tierce の2種類があつて①は年間7万～15万 F.M.G（人命、物件を含む）、②は年間5万～7万 F.M.G（物件のみ）程度である。補償額については、事故の状態により当事者間の話し合いによる。
① タクシー・ヘイヤーの利用料金
② タクシーは小、中型で大体同じ料金である。市内では

100～200 F.M.G程度。メーターが無いので乗る前に料金を確認して乗る必要がある。夜間の料金は昼間の2倍、車はシトロエン2馬力とフィヤットや最近ではトヨタカローラ等が走っている。

(ハ) レンタカー（車到着までの利用）

非常に高く車の数も少ないのでむしろタクシーを利用した方がよい。

(ニ) 自動車購入

① 購入方法・融資方法

日本製の車はトヨタおよびホンダ等が輸入されているが未だ数が少ないためエージェントのサービスや備品、修理の面で難点があるが月賦制でP.Rの見地から私用車として考えるのも一案であろう。但し申込んでから約3ヶ月はかかる。一般に当地はヨーロッパの車が多くエージェントも確であり所屬先や大使館の斡旋により月賦払いも可能である。また一括払いの場合はO.T.C.Aの斡旋により東京銀行から融資を受けるのも方法である。実用上自動車の所有は必須である。

② 免税輸入特権について

A1ホームによると自動車を除く身廻り品は免税となっているが、携行機材を除いては現在のところ一切免税特権は受けていない。

③ 帰国時の売却方法・課税

免税で購入した場合は買い主がそれに見合う税金を払わなければならない。売却方法としてはエージェントに依頼するのも一考である。

(ホ) 運転免許

① 国際免許証の有効性

国際免許証は1年間有効であるがその後タナナリーブ州庁に行ってこの国の免許証に切り換える必要がある。

② 免許証の取得方法・経費等

自動車学校があり、技術取得までていねいに指導してくれる。費用は1万5,000～2,000 F.M.G位で大体1ヶ月～3ヶ月位で実地試験にパスすれば本免許を取得出来る。

(ハ) ガソリン代

1ℓ 55 F.M.G

10. 為 替

(イ) 相場 公定・実勢レート等

邦 貨 1 F.M.G = 1.17円

米 貨 1 US\$ = 200 F.M.G

(ロ) 対日送金 方法・限度等

マダガスカルからは収入の25%までは送金可能。しかし専門家の場合はO.T.C.Aより東銀・パリ支店に振り込まれるため問題は無い。

(ハ) 滞在費等の受取り方法 日本からの送金先(通常利用される銀行名)現地通貨での引き出し方法

日本からはドルで東銀・パリ支店に振り込まれ、そのチェックをBanque Nationale Pour le Commerce Et D'industrie口座で現地通貨に替えている。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

国際空港は首都タナナリーブとマジュンガの両市にあり税関検査は最近非常に嚴重である。特に外国よりの武器および治安関係、宣伝物等の持込みについては神経をとがらせている。また、カメラ類や電気製品等についても検査は厳しい。

② 持込禁止品（国際的禁止品以外の）

特になし。

③ 入国に際しての注意事項

査証、イエローカードは勿論のこと外貨申告が必要である。空港での荷物運搬料は1ケにつきどんな小さな物でも50 F.M.G取られるので注意した方がよい。

④ 持出・禁止品

5,000 F.M.G以上の金は持ち出せない他、金、プラチナ化石（加工してないもの）水晶の原石、天然記念物（動・植物）等は証明書が無い限り持出し禁止である。

(ロ) 外国人登録の有無

3ヶ月以上滞在する場合は申請書を移民局に提出しなければならない。

(ハ) ビザの更新手続き等

長期滞在ビザを取ればよい。その手続き方法として所屬先からの証明書が必要である他、写真1枚とパスポートを移民局に提出すればよく、約2週間を要する。

12. 便宜供与

(イ) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

なし。

② 出張旅費 公用車の提供、ガソリン代の支給の有無

A1ホームに従い出張旅費は日当700F.M.G程度が支給される。所属先によっては公用車が提供されているが、筆者の場合は公用車の提供は無いが地方出張の場合に限りガソリン代および航空賃は支給されている。

③ その他(住宅提供・現物供与等)

○住宅提供は無いが家具については若干提供されている。

○カウンターパート(通訳…通常の例を記載すると)通訳なし。指導上問題は無い。

○免税特権

身廻り品、酒、タバコ、エアコン購入など一切無い。

13. 通信・運輸

(イ) 郵便事情

① 安全性・配達システム(各戸、P.O. box等)

戸割配達はされているが安全とは言えない、非常に遅れて来る場合や紛失する場合もある。小包等は総て局で受け取っている。外国からの小包は税関の検査が

厳しい。船便は3ヶ月～6ヶ月を要する。

② 電報・電話サービス

電報、電話いずれも利用出来るが、かなり時間を要

する。日本への電報は一語 2 4 2 5 2 F.M.G であり日本への国際電話は 3 分間 4, 1 7 6 F.M.G で 1 分増すごとに 1, 3 9 2 F.M.G で通話までに約 1 時間を要する。

③ 手紙、電報の日本現地間の所要日数

手紙・航空便	4 日～1 0 日
船 便	2 ヶ月
電報	2 4 時間以内

④ 主要地方都市との連絡方法（電報・電話の有無、所要時間）

主要都市間の電話は申込み式で回線が少なく南部の方は 1 本しかない所もあり 1 0 ～ 2 0 分位を要し音声は遠く聞きにくい。

(ロ) 運 送

① 陸送・海送業者の有無・料金

首都タナナリーブ = タマタブ間の車送は禁止されて居り鉄道だけによる。費用は 1 トン 1 km 当り 9.3 F.M.G タマタブ = 日本間の海送は 1 立方メートル US \$ 5 5.9 5、保険料は 1 %、梱包費 1 立方メートル当り 2, 5 0 0 F.M.G。普通利用されている運送業者は三井のエージェントを兼ねた Messenger les Maritimes というフランスの業者がある。

(2) 家財送付上の手続・宛名注意事項

宛名は大使館気付で送る方が手続き上非常に便利である。荷物の取扱いが乱暴であつたり、港で荷物が停泊する場合もあるので出来るだけ大きく荷作りした方が紛失や破損の危険が少ない。

14. 言 語

(イ) 公用語

マダガスカル語およびフランス語が当国の公用語となっている。フランス語を知っていれば不便は無いが英語はほとんど通じない。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

かなりフランス語の普及率が高いので、フランス語を習得していれば業務に支障は無い。また現地語の事前学習の方法として日本では難かしいので現地語は赴任してからでも充分である。

(ハ) 語学学習の施設・受講時間等

個人教授以外にない。

15. 気 候

(イ) 年間を通じての気候

マダガスカルは南緯12度から25度の間にあり、その大部分は熱帯圏に位置する。海岸地域では年間を通じて一様に高温多湿で雨量も多いが、中央高地にある首都タナナリブ市は海拔1,400mあり、11月～4月が雨季で最高平均気温が28℃、年間雨量1,200mm内外であり東海岸地方に比べ1/2程度の雨量である。冬に相当する乾季が5月～10月まで続き、気温が最低平均9℃前後である。日中を除いて朝晩冷え込むので暖房が必要になり、薪、プロパン、石油又は電気ストーブ等が使用されている。時々サイクロン(Cyclon)が襲撃し被害を与える事がある。平口と言って中央高地は年間を通じて温和な気候に恵まれ寝ぎ安い。

(ロ) 健康管理上の注意事項

朝夕は急に気温が下がるため注意しないと風邪をひき易い。また中央高地では空気が少々稀薄のため頭痛等異常をきたす事もあるので時には休暇を利用し、海岸地方に出かけることも必要である。特に心配するほどの病気は無いが、一般に不衛生な者が多いため人混みは出来るだけ避けた方が良いでしょう。また日中はかなり気温が上昇し、日本に比べ体力の消耗も烈しいので現地の習慣に合せ生活する事と現地の果実等を出来るだけ摂取する事によって疾病に対する抵抗力をもつける。

16. 治 安

(イ) 一般情勢

昨年(1975年)の5月13日に起った暴動により軍事政権に交って以来現在のところ表面上、治安状況は確保されているとはいえ内容的には安定しているとは言えない。失業者や泥棒も増えているので注意が肝要である。

(ロ) 夜間外出上の注意

特に外出禁止令が敷かれない限り夜間外出は差し支え無いが、但し時折不審尋問を受ける場合があるので身分証明書は常に携帯した方が良いでしょう。

① 禁止令の有無

● 昨年(1975年)の5月1日～6月いっぱい位まで暴動による外出禁止令が敷かれた。治安状況に応じて禁止令が施行される事もある。

● (ハ) 緊急時における大使館または駐在員との連絡方法(連絡組織団) 集合場所および要領。

緊急時には日本大使館より電話連絡を受け、指示をおおぐ事になっている。

17. その他

(イ) 対日感情、現地人気質

マダガスカル人は日本人に対し極めて友好的であり文化経済交流を通じて一層の増大を強く希望している。マダガスカル人の祖先はインドネシア、マレーシア系の人種も多く、東洋人に対する親近感も強い。

個人的には非常にお人好しだが一方自尊心は高く頑固な面もみられる。一般に勤労意欲が乏しく責任感に欠ける。

(ロ) 新聞・雑誌等

① 日本よりの購読方法

出発前に日本で手続きする方がよい（必要とする雑誌等航空便、船便による）。

新聞は首都に在住する場合は日本大使館にあるので必要はない。

② 日本語雑誌等の販売店の有無

無し。

(ハ) 風俗・習慣

1年を通じて一番寒い冬季に当る6月～9月頃にかけて2才～3才の男児が割礼を受けるが一般に宗教には関係なく行なわれている。住民の90%近くはキリスト教徒で5%は回教徒である。なお伝統的宗教により、マダガスカル人はアンドリアマニトラなどが「芳香の神」あるいはザナヘリと呼ばれる唯一の神を信じている。また、

その祖先が彼等に代って最高の神との間をとりなしてくる力をもつと信じている。従って定期的に死者を掘りおこし、太陽にあて、その着衣をとり変える儀式が今なお行なわれている。

① 特に禁じられている風俗・食習慣・チップ等
特になし。

② 専門家としての体面

日本人の代表として受け取られる事を覚悟し、その地域社会で常識に従って行動すべきである。また公私両面に渡って交際が行なわれるため、まず語学能力を身につける事が必須である。

(二) 理髪店・美容院・クリーニング店

○理髪店は数多くあるが衛生的な所は少なく首都には3、4軒あり、料金は500～1,000 F.M.Gである。洗髪はするが髯はそらない。チップを50～100 F.M.G程度出すのが普通である。

○美容院は首都に数多くあり割合に清潔である。ただしパーマメントの方法は旧式で4時間近くかかる。料金は3,500 F.M.Gで大体統一されている。髪を洗ってくれる女の子に普通チップを50～100 F.M.G程度やる。

○クリーニング店

カタナリニブ市には2、3軒あり、仕上りは満足出来るが料金は高い。一般に家庭には女中がいるためクリーニングは背広やコート類だけを出す事が多い。

クリーニングの背広上下は6,000～1,000 F.M.G

コート	400~600 F.M.G
Yシャツ	150~200 "

(※) 買物店の規模・種類・値引等

当地にはデパートは無いが大きいマーケットが4軒、他に小さいのは沢山ある。マーケットには日用品、衣類、食料品とあり、一応1軒の店で何でもそろろう。野菜や果実類は露天の市場に行く。毎週金曜日はタナナリーブ市のメインストリートである独立通りに"市"が開かれ、民芸品その他日用品等が出る。マーケットや普通の店では正札のままであるが野菜・果実市場は1割~2割は値引きする。金曜の市は旅行者を対象とするので値段が3~5割は増して値をつけているので始めからそのつもりで値切る。

(△) 今後赴任される専門家に対するアドバイス等

各国からの技術者や外国人を問わず幅広く交際する事が大切であると思う。生活環境が異なるため赴任当初3ヶ月位は精神的な面で苦勞があるが焦らず、まずは現地に馴染む事であろう。それにはまず自分の家庭生活を早く落ち着かせる事が大切である。自動車購入を含め新規世帯の設置等、多額の資金が必要となるので前もって計画されて来た方がよい。衣食品は出来るだけ多く携行され、なお贈答品等についても純日本的な物が非常に珍重され、且つ喜ばれる。業務に必要な携行機材については現地の事情を充分調査検討された上で申請される必要がある。一般にマダガスカル人は勤勞意欲に欠け、勞せずして樂をほうという気持が強いため、これらを脱皮し

て行くには相当な時間を要するものであるが、日本人的感覚で物事を判断したり、極度に押しついたりする事は良し悪しであり、関係政府要人の意向に背きかねない場合もある。従って、あせらず急がず常に心の余裕を持って根気強く、寛容な精神で彼らが自主的に意欲を盛り上げて行く様友情の中に深く潜入して行く事が必要であろう。

Ⅱ 同国に対する我国の技術協力実績

昭和48年3月31日現在

形 態	区 分	農 水 産	建 設	鉱 工 業	運 輸	通 信	厚 生	行 政	そ の 他	家 計 (人)	経 費	
											(千円)	(千米トル)
研 修 員 受 入		4	1	4						9	2,939	8
専 門 家 派 遣		10	1	22					1	34	19,826	57
開 発 途 地	名 称	調 査 内 容		期 間		団 員 数						
	鉱物資源調査	同島の未利用鉱物資源開発のため、基礎的資料、情報を入手し、検討するための各種鉱床踏査。		39. 3 / 39. 6	7		10,298		29			
	電源開発計画調査	Fiarrantsoa 地域における水力開発の可能性に関する基礎調査を実施し、今後の開発方針につき勧告する。		40. 9 / 40.11	6		9,421		26			
	ナモロナ川水力開発計画調査	南東部マナカラ駅内を流れるナモロナ川上流水力開発計画調査。		45.11 / 45.12	9		19,839		55			

Ⅲ 大使館等連絡先

大 使 館

住 所 Ambassade Du Japon, B. P. 3863,
 Cité Planton, Tananarive,
 Madagascar.

電 話 2 6 1 - 0 2

電 略 TAISHI TANANARIVE

執務時間 月曜日～金曜日
 A. M 8 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0 , P. M 2 : 3 0 ~ 5 : 3 0
 土曜日 A. M 8 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

